

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2単位)	3. 科目番号	GELA1330
2. 授業担当教員	渡邊 保志		
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。</li> <li>4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末レポート課題：ボランティアにおける多様性、公私協働、共生社会について述べる。 字数は、1,000字以上</li> <li>・実地見学報告レポート 字数は、400字以上</li> </ul> ワープロ (A4)、あるいは手書き。ただし、手書きの場合、罫線用紙とする。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 講義内容を簡潔に示したプリント、及び随時、資料を配布する。 <b>【参考書】</b> 川村匡由編著『ボランティア論』ミネルヴァ書房、2006。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 安藤雄太監修『ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房、2002。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになったか。</li> <li>3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深めることができたか。</li> <li>4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができたか。</li> </ol> ○評定の方法 授業への積極的参加度 40% 課題レポート 30% 期末評価 (レポート・試験等) 30% ※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。		
12. 受講生へのメッセージ	出会いの時がボランティアの始まり。可能な限り何らかの形で地域のボランティア活動に参加するよう心がけること。通知 (確認) 事項等は、随時、授業中に伝える。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) スケジュールの確認	事前学習	学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。
		事後学習	オリエンテーション・スケジュールの要点を確認すること。
第2回	ボランティア活動の概念	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	ボランティアの理念について各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第3回	ボランティア活動の目的	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	ボランティアの目的について各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第4回	ボランティア活動の活動範囲・事例	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	事例を通して学び、感じたことを学習ノートにまとめる。
第5回	ボランティア活動の内容	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント (ボランティアの分類等) との関連を再確認する。
第6回	海外のボランティア活動の沿革	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント (欧米のボランティアの沿革等) との関連を再確認する。
第7回	日本のボランティア活動の沿革	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまと

			める。
		事後学習	講義とプリント（戦後ボランティアの沿革等）との関連を再確認する。
第8回	企業、労働組合のボランティア活動	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント（企業の社会貢献等）との関連を再確認する。
第9回	社会福祉協議会、NPOと有償ボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント（NPO等）との関連を再確認する。
第10回	病院ボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント（ホスピス）との関連を再認識する。
第11回	災害ボランティア・東日本大震災でのボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。東日本大震災でどのようなボランティア活動が実践されたかを調べる。
		事後学習	リアルタイムでボランティア活動が実践されていることを再確認する。
第12回	実地見学 地域活動とボランティア (対面・遠隔併用授業の場合はプリント(資料)にて行う) 見学予定：一般社団法人愛知県聴覚障害者協会	事前学習	実地見学先の活動について調べる。各自が質問を一つ以上考えておく。
		事後学習	実地見学先での講話内容等を学習ノートにまとめる。
第13回	実地見学報告とディスカッション	事前学習	実地見学報告レポートを作成する。
		事後学習	各報告レポートとディスカッションの要点を学習ノートにまとめる。
第14回	ボランティア活動の内容（まとめ）	事前学習	ボランティア論での学びを振り返り、学習ノート・プリントを整理確認する。
		事後学習	ボランティアの文化性についてまとめる。
第15回	期末レポート提出（講評等）	事前学習	期末レポート提出の準備を行う。
		事後学習	ボランティアは、何よりも実践することにより、はじめて理論的にも理解できるものであることを再確認し、今後の活動に生かす。
15. 実務経験を有する 教員特記事項	障害者運動団体及び福祉用具貸与事業等に携わってきた経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		